

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	-	-	-	-
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・前月から円安が続いている関係で、国際線の店舗では外国人観光客の来客数、購入量、購入金額が増えており、前年比115%ほどの売上となっている。ただ、国内線の店舗では前年と比べて横ばい又は若干少なめで推移している。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数の動きをみると、悪天候で前年を下回る日もあるものの、全体としては前年を上回って推移している。市内からの来店に加えて、外国人観光客の増加が目立っている。
		百貨店（営業販売促進担当）	単価の動き	・来客数が前年並みに戻ってきていることに加えて、雑貨、衣料品の客単価が婦人物、紳士物ともに上がってきている。定価品の動きはまだ回復していないが、値引きした商材の動きが全体の売上げをけん引している。また、初売りの福袋も伸びたほか、アクセサリ、バッグなどの高額商材が例年にないほど売れている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・春物を中心に衣料品の動向が上向いてきた。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・新型車の発表が相次いであり、前評判も良いことから、来客数が増え、受注につながってきた。他社の新型車発表もあり、相乗効果で景気が良くなってきている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・北海道の場合、冬を迎えると買い控えが始まり、暖かくなる3～4月に納車できるような今くらいの時期から販売量が上向いてくる傾向がある。今年も例年と同様の動きがみられており、3か月前と比べると景気はやや良くなっている。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・1月の北海道の景気は天候などの自然環境にも左右される傾向があるが、今年は安定して推移しているため、景気はやや良くなっている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・スポーツイベントやコンサートによる需要もあり、宿泊客数、売上は前年を上回って推移した。個人客、団体客とも、観光目的の客が堅調であった。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・1月も荒天の日が多く、航空便の欠航がみられているため、月全体の入込客数が前年を下回る可能性もあるが、流水の接岸が例年よりも早いと見込まれていること、周辺観光地での新イベントが行われることなどの効果から、月末にかけて観光客の増加が期待できる。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・微増ではあるが、年明け以降、来客数が増えている。主催旅行の販売状況も悪くない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・今年は降雪量が多いこともあり、販売量、利用客数とも順調に推移している。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・法人の大口での通信サービスへの加入が想定よりも増えており、道内の中規模企業の景気回復が進んでいることを実感している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・例年と比較して欠航回数が少ないため、輸送量が若干ではあるが増加している。
		商店街（代表者）	単価の動き	・高額商材の動きが良くなく、全体の客単価を押し下げている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・様子見をしている客が多い。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・正月という時期的な要因を除けば、引き続きやや悪い状態で推移している。地域住民については、ビニール袋や持参の袋を持ち歩いている人の様子から、最寄品などの日々の買物の動向にはあまり変わりがないとみられるが、紙袋で買回り品を持ち歩いているような人はほとんどみられなかった。道外観光客及び外国人観光客については、当商店街で目立つほど土産品などを買う姿がみられなかった。	

商店街（代表者）	販売量の動き	・今シーズンの北海道は12月の年末商戦時期に50年ぶりの大雪に見舞われ、交通機関がまひしたため、クリスマスなどの特需を含めて商売に大打撃を受けた。1月に入っても売上の大きな時期の落ち込みを取り返すこともできず、混迷が続いている。
一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・例年、今の時期に天候不順の日がみられることも影響しているのか、日本人観光客の利用が依然として増えてこない。一方で、外国人観光客の利用が好調である。特に中国からの観光客は、以前のような爆買いはあまりみられなくなったものの、いまだに客単価が高く、とても助けられている。
一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・得意先での売れ筋の商材をみると、飲料水が大きく伸びている一方で、アルコール類が依然として苦境を呈しており、できるだけ仕入れを控えようという動きが顕著に表れている。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・初売りが1月3日となり、1月の営業日数が1日減ったものの、リモデル効果もあり、売上は前年を4%上回った。セールの上も好調に推移している。ただ、外国人観光客による売上が40%の増加となったのに対して、地元客による売上は微増にとどまっているため、状況が大きく好転しているとはまだ感じられない。また、来客数は前年割れとなっており、売上の増加は客単価のアップによるものとなっている。
百貨店（担当者）	来客数の動き	・セール開催を心待ちにする顧客は年々減少しており、欲しいものを欲しい時に購入することが増えている。こうした最近の傾向が来客数減少の一端となっている。
スーパー（店長）	来客数の動き	・12月の大雪の影響もあり、初売りの来客数は前年を下回った。1月下旬に入っても来客数の前年割れが継続している。
スーパー（役員）	販売量の動き	・生鮮食品の相場高、一般ナショナルブランドの値上げが前年から続いており、商品単価が上昇していることが影響しているのか、販売量が減少している部門、カテゴリーが多い。現状は単価調整をしていることもあり、客1人当たりの買上点数の落ち込みがそれほどみられず、前年並みの売上を維持できているが、あまり良い状況ではない。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前月までと比較して、来客数が若干回復傾向にある。当地及び近郊の積雪が多く、気温が低いことから、近場で買物を済ませている客が多いのか、青果や生鮮品の販売量が増加している。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・売上、来客数ともに前年割れが継続している。12月のセール時期はやや持ち直しの動きがみられたが、セールが終了し、1月に入るとまた以前の状態に戻ってきている。競合店では閉鎖する店舗も出てきており、地区全体の景況感が落ち込んでいる。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・前年と比べて来客数が増えてこない。
家電量販店（店員）	お客様の様子	・初売りセールでは、前年ほどのにぎわいがみられなかった。来客数も前年を下回った。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が出た割に思ったほどの伸びがみられていない。
乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・年明けからの来客数が思っていたほど増えていない。前年並みにとどまっている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・原油価格が安定しているため、変化があまりみられない。
高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・米国の新大統領就任後、米国がTPPから離脱することが決まるなど、日本と米国の関係がどう変わっていくのが見通しが立たなくなっているため、経済的に好転していくかが不透明な状況となっている。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・12月までの年間売上は目標を達成できなかったが、1月はどうか前年並みの売上を確保できた。予約客の中には新規客も少なからずみられた。ただ、全体的に客単価が上がってきておらず、テレビなどで野菜が高いと報道されると、客入りに影響しそうで不安が募る。

	タクシー運転手	来客数の動き	・1月は例年よりも雪が多く、除雪が行き届いていないため、道路が渋滞し、タクシーの運行に支障をきたしている。タクシー1台当たりの売上は前年並みであるが、乗務員不足で稼働が落ち込んでいるため、会社の売上は引き続き前年を大きく下回った。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・外国人観光客がわずかに減少傾向にあるが、イベント関係での利用やスキー場利用客がやや増加しており、全体としてはあまり変わらない。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・各種指標がほぼ例年どおりの数値で推移しており、あまり景気の良さを感じられない。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・3か月前と比べると、売上が10～15%落ち込んでいる。例年、この時期は落ち込みがみられるが、今年に限っては落ち込み幅が大きく、懸念している。	
	通信会社（社員）	販売量の動き	・販売量、来客数とも大きな伸びはみられない。総務省などからの法律遵守指導もあり、業界的にあまり活発な動きがみられない。	
	観光名所（従業員）	来客数の動き	・2016年は利用乗降客数がほぼすべての月で前年を上回ったが、今年1月の利用乗降客数は25日時点で前年比96.6%にとどまっている。	
	パチンコ店（役員）	単価の動き	・原油価格の高騰により加工業者などの経営環境が厳しくなっている一方で、冬のイベントなどを控えて観光業界は好調に推移している。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数、売上とも堅調に推移しており、あまり上下のぶれがみられない状況が継続している。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数が3か月前とほとんど変わっていない。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株式市場が低迷し、この先の見通しが立たない状況にあるため、住宅関連の動きは厳しいまま変わらない。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・寒さが影響しているのが、年末年始を過ぎてから客足が鈍っている。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数、売上ともに前年比92%弱となっている。年が明けて初売りににぎわいもあまりみられず、年末と同様に、正月も特別な月ではなくなっている。	
	スーパー（役員）	それ以外	・スルメイカの記録的な不漁による水産加工業者への影響が深刻である。関連取引先も多く、地域経済全体にマイナスの影響が出ている。	
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が前月と比べて大幅に減少している。	
	自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・新車の販売台数が前年並みとなっている一方で、中古車が前年割れとなるなど、車離れが進んでいるといわれる中、当地でもその影響が出てきている。2014年以降、オイル交換などの自動車のメンテナンス件数が減ってきており、1月は前年の95%台となっている。	
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・この時期になると、団体客、個人客とも、観光客の利用が激減し、地元客中心の利用となるが、地元客は個人客を中心に年々減少傾向にある。全体売上は前年を18%下回っており、繁忙期と比べて落ち込みの大きさが目立っている。	
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・前年と比べて外国人観光客の入込に減少傾向がみられる。	
	観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・円高の進行により外国人観光客の団体利用が減少している。また、原油高の影響でガソリン価格が上昇していることで道内客の動きも鈍くなっている。	
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・台風の影響で8月末から運休していた札幌までの鉄道が12月後半に復旧したが、鉄道利用の旅行申込が運休以前の水準まで戻ってきていない。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・本来であれば1月に来店する予定の客が、前倒しで12月に来店するケースが多くみられたため、1月の状況はやや悪くなっている。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・モデルルームを訪れる客の分譲マンション購入にかかる商談の時間が長くなってきている。	
	x	タクシー運転手	販売量の動き	・売上が減少しているが、季節要因に加えて、景気が下向いていることも影響している。
企業動向関連	-	-	-	
(北海道)	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前の10月の販売量が前年比プラス2.0%だったのに対して、1月の販売量は前年比プラス7.9%となっており、景気がやや良くなっている。	
	建設業（従業員）	それ以外	・台風被害で寸断されていた主要輸送路も復旧し、道内の建築工事現場では年度内竣工を目指して、設備や仕上工事が最盛期にある。	

	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・前年の台風災害の復旧工事に関連した引き合いが増加している。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・地元百貨店が閉店して以来、街の活力が低迷している。一方で首都圏などではマンション需要に底堅いものがある。ただ、世界規模で広まる政治的な枠組みの変化が地方都市にも影響を及ぼすことを懸念しているのか、消費者が様子見をしている状況もうかがえる。
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共工事の受注が堅調に推移しており、民間建築も大型物件の受注が確保できている。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・公共工事の増加により建設関連業種が改善している。また、昨今の円安を追い風に外国人観光客の入込も増勢を強めており、観光関連業種も好調を維持している。大雪が個人消費の足かせになったものの、景気は底堅く推移しており、3か月前と同様の水準にある。
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引や建物の建築関連の動きが、前年と比較して若干回復傾向にある。
	司法書士	取引先の様子	・依然として景気回復の兆しがみられない。冬期間のため、不動産取引も減少しており、景気回復にはまだ時間がかかる。
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・客先の業績が特に悪いわけでもないが、購買に対して慎重な姿勢は変わらない。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・今年度の売上は、引き続き前年を10%程度上回って推移している。ただ、4月以降については、前年も売上が好調に推移していたことから、大きな上乗せはないとみられる。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べると、売上が徐々に減っている傾向がみられる。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・オーダーの数や電話の数などが一時よりも少なくなっている。冬場の閑散期の一服感が漂っている。
	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・北海道内の物流網は鉄道も含めてほぼ回復したが、不作による農産品の減少が年明けから顕著になっており、倉庫保管量が極端に減少している。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・1月は稼働日数が少なく、客先の仕事量も少ないため、受注、販売量ともに落ち込んだ。
	x	-	-
雇用関連 (北海道)	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・人材派遣、人材紹介部門への求人依頼が増加している。また、札幌市内及び道内各地で開催している求職者と求人企業が直接面談できる合同企業面説会において、最近では求人企業の参加が飛躍的に増加している。景気が悪かった数年前は、企業の参加費用が無料であったにもかかわらず参加企業集めに苦戦していたことから、企業の景況感の回復に伴い人材不足が顕著となっていることがうかがえる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・取引先企業から自動車関連や通信機関連の動向が活発化してきているとの話がみられる。
	求人情報誌制作会社（編集者）	それ以外	・正規社員では業種、職種によるミスマッチが、非正規職員では勤務時間や休日などの募集要項によるミスマッチがみられるが、全体的な求職者数に大きな変化はない。
	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・当地の求人件数は前年と比較して少なく、景況感の影響がうかがえる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率が6年10か月連続で前年を上回る中で、新規求人数が前年から2.9%増加し、月間有効求人数が前年から0.5%減少した。ただ、前月とはそれぞれ増減が逆転しており、目立った傾向はみられない。一方、新規求職者数は前年から12.6%減少し、月間有効求職者数は前年から4.8%減少しており、減少傾向が続いている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数が5か月連続で前年を下回った。一方、有効求人倍率は4か月連続で前年を下回ったものの、1.05倍と引き続き1倍を超えていることから、雇用情勢は改善が続いている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・一部のサービス業で新規求人数の減少傾向がうかがえるものの、新規求職者数の減少により、これまでと同様の水準の新規求人倍率が維持できている。

	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・漁業の不振が製造業に悪影響を与えている。また、小売業の不振も継続している。
	学校〔大学〕 （就職担当）	求人数の動き	・各企業の新卒採用活動は一旦終了するケースが多いが、多くの企業が予定人数を採りきれておらず、2月までは良い学生がいればピンポイントで紹介してほしいという依頼が多くみられるため、2月末までは現状の好調さが続く。
	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・今年に入り、多くの業種で求人広告件数が前年を下回っている。
	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・前年と比べると1月の求人活動はやや抑え気味となっている。人の採用が難しいため、掲載のタイミングを吟味する企業や諦める企業も出てきている。また、米国の新大統領政権の先行きが不透明なことも多少影響していそう。
x	-	-	-